

共に生きるために「今、自分にできること」

～体験活動と地域ボランティアを通して～

目標・ねらい

- 高齢者とのかかわりを通して、高齢者への理解を深めるとともに、命の尊さを感じ思いやりの心を育てる。
- 介助・介護の方法を学び、施設訪問を行うことで、高齢者とのかかわり方を体験する。

教育課程上の位置づけ
 ・総合的な学習（資料1）
 ・道徳

事前指導・経緯

1学年の福祉に関する取り組み「障害者との共生」

- コース別学習
 学年職員が4つのコースに別れ、それぞれが担当するコースについて全クラスに授業を展開

【担当コースについての研修】

- ～心のバリアフリーをめざして～
- 障害者は特別扱って欲しいのではない
 - 障害のある人はいつも介助を必要としているわけではない
 - 障害者への配慮と介助方法 など

コース1 ・ボランティアは誰のために	コース2 ・ボランティアにはどのような活動がある？
コース3 ・車いすにやさしい町とやさしくない町	コース4 ・道徳「車いすの少年」で介助について考える

- 体験活動

クラスごと、車椅子体験・ブラインドウォークを全員が体験

【関係機関との打ち合わせ・計画】

- 車椅子の借用と操作方法について
- 車椅子・ブラインドウォーク体験のコース計画と安全計画

車椅子体験 ・班で1台ずつ ・全員が乗り手、押し手になる	ブラインドウォーク体験 ・2人組で体験 ・全員が介助者役と目の不自由な人の役を体験
------------------------------------	---

2学年の福祉に関する取り組み「高齢者との共生」

- 高齢者とは
 学年でのクイズ集会と講演会を通して、高齢者について考えを深める

【関係機関の協力を得て】

- 生徒の意識調査（資料2）
- 高齢化社会についての情報収集
- 講演会講師の選定
- 講演内容についての事前打ち合わせ

学年クイズ集会 ・クイズで高齢化社会について知識を深める ・「年をとる」ことは誰もが通る道であり特別なことではない	講演会（資料3） ○〇市〇部地区介護支援センターの方をお招きして ・高齢者との接し方 ・声のかけ方と介助方法 ・シニア体験器具の諸注意
---	---

- 高齢者疑似体験と施設訪問計画

【事前研修と関係機関との打ち合わせ】

- 学年職員全員ボランティアセンターを訪問し、シニア体験器具の着脱についての指導を受ける
- 施設訪問日時の調整と打ち合わせ
- 施設内の状況把握と諸注意

シニア体験 ・全員がシニア体験者 ・介助者になる ・老いによる身体状況の変化について理解する	施設訪問計画づくり ・お年寄りとどのようなことをするのか計画を立てる ・各担当が内容の確認安全面に配慮する
---	---

道徳「一冊のノート」でお年寄りの不安・悩みを考える

実践内容

〇〇市特別養護老人ホーム「〇〇園」訪問 お年寄りとの交流

生徒への事前調査から、お年寄りの「身体の衰え」などについての理解不足からお年寄りの行動への嫌悪的な思いや態度があるということがわかった。普段お年寄りと生活している生徒は比較的理解を示しているが、お年寄りとあまり接して



いない生徒には理解しづらいようである。地域的に核家族が多く、お年寄りとの交流、ふれあい体験が不足しているため、学年の生徒全員が体験できるように工夫し、実施した。

～ 訪問中の様子から ～

最初から積極的に声をかける生徒も何人かいたが、遠巻きにしてどうしたらよいのかとまどいを見せる生徒が多かった。時間がたつにつれ、話しかけたり、折り紙をする姿があちらこちらで見られるようになった。元気なお年寄りとは風船で遊び、対戦を挑まれた生徒もいた。何かをしてあげるつもりでいた生徒も、そうではないということが次第にわかったようである。また、どのお年寄りも声をかけられたいわけではなく、静かに一人で過ごしたい場合もあり、相手がどうして欲しいのかを推し量ろうとする様子も見られるようになった。何度も同じ話をするお年寄りに対しても、頷きながら話を聞く姿も見られた。

事後指導

「高齢者との共生」の学習を通して感じたこと・考えたことをまとめる

【生徒の感想から】

- ・今まで自動販売機でもたもたしているお年寄りを見てイライラしていたが、お年よりは好きでゆっくり歩いたり動いているのではなく、上手く出来ないのだということがわかった。今まで出来ていたことが出来なくなって、お年寄り自身、上手く出来ないことが辛かったり不安だったのかもしれない。これからはもう少し待ってあげたり、手伝ってあげようと思う。
- ・お年寄りとはどのような話をすればよいのか難しかったが、まずは声をかけることが大事なのだと思う。
- ・耳があまり聞こえない人や、何を言っているのかわからない人など色々なお年寄りがいたが、その中でお世話をしている人は本当にすごいと思った。
- ・お年寄りと話してエネルギーをもらった。みんな元気で色々な話をしてくれて楽しかったし、勉強になった。
- ・これからも個人的に訪問してみたいと思った。



高齢者のおかれている状況について理解を深め、自分のお年寄りに対する考え方や感じ方の変化に気づき、これからのどのように接していくかを考える。

介助体験により、介助する上での留意点や大変さを確認するとともに、介助される立場に立って、その人の気持ちを思いやることの大切さを理解する。

高齢者の立場はいずれ自分にも訪れることを理解させ、今自分にできることは何かを考えさせる。

取組の評価

- 全員が体験する場を設定したことで、一人ひとりが「今、自分にできること」を精一杯考え、行動することができた。
- その後の生活の中でお年寄りに声をかけたり、お手伝いをする生徒が増え、ボランティア活動にも積極的に参加する生徒が増えた。
- 学校と施設の先生方や諸機関との理解・協力が高まった。連絡・準備等に、時間の確保や調整など綿密な計画が必要であったが、この活動から得られた成果は大きいものがあった。
- 保護者に対しては、活動の様子を「学年だより」や「保護者会」の中で紹介し、家庭でも生徒との話題にしてもらい共に考える機会になった。

資料 1

年間計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 学 年	<p>ボランティア活動 ボランティア活動は、多種多様にある。学級、学校、地域に目を向け、自分達にできることは何かを考え、気づかせ、身近な活動から取り組む。</p> <p>福祉について考えよう 障害をもった方々の実態を知り、点字や手話を学び、車椅子などの体験学習を通して、共に生きるということについて考えさせる。</p> <p>先人に学ぶ 班ごとに過去の日本の暮らしを調べ、先人達の苦労が今の生活に生きていることに気づかせる。また、未来に役立つ科学的な技術を探していく。↓昭和館・科学技術館</p> <p>「学び方を学ぶ」 調査方法1（インタビュー・アンケートの仕方）・調査方法2（インターネットの利用方法） 研究計画の立て方・研究のまとめ方・以上4コースを学ぶ</p> <p>校外学習 班で協力し、計画からまとめの新聞作りを通し、人間関係を深める。↓清水公園</p> <p>オリエンテーション 「総合的な学習の時間」の一年の学習の流れ、テーマ学習の予定・方法・目的を知る。</p>											
2 学 年	<p>先人に学ぶ 修学旅行に向けて、課題をつかみ解決方法を探る。</p> <p>身近にできるボランティア 地域に目を向け、自分達にできることは何かを考え、気づかせる。</p> <p>福祉について考えを深めよう 老人福祉について考え、現状を調べ、学習する中で共に生きているということについて考えさせる。</p> <p>先人に学ぶ 林間学園のまとめ 課題解決のまとめ、新聞づくりを行い、今後の生活に生かしていく。</p> <p>先人に学ぶ 林間に向けて 現地の自然、歴史、文化などについて、課題を設定し、課題解決に向けて取り組む。</p> <p>身近にできるボランティア 学級、学校、地域に目を向け、自分達にできることは何かを考え、気づかせる。校内、学校周辺ですぐにできること。</p> <p>オリエンテーション 二学年のテーマ学習の予定、方法、目的を知る。</p>											

資料 2

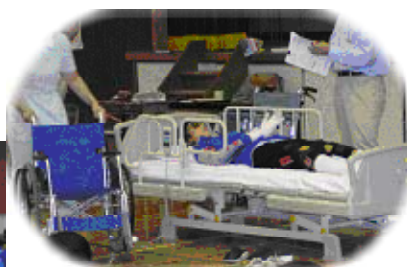
【生徒の意識調査】
～高齢者との共生～

1. 高齢者とは何歳くらいのことを言うと思いますか。
(50歳、60歳、65歳、70歳、75歳、80歳)
2. じいさん、おばあさんとはよく会いますか。
(毎日、ほとんど毎日、月に数回、年に数回、ほとんど会わない)
3. おじいさん、おばあさんと一緒に住んでいますか。
(住んでいる、住んでいない)
4. おじいさん、おばあさんと一緒に住みたいですか。
(はい、どちらでもよい、いいえ)
5. 高齢者と出会った時に、何かしてあげたという経験がありますか。ある人はどのようなことですか。
(ある、ない) 経験内容
6. 高齢者と出会った時に、高齢者に対して「困ったこと」や「嫌だなあ」と思った事がありますか。ある人は、どのようなことですか。
(ある、ない) 困ったことや嫌だなと思ったこと
7. 高齢者との交流活動についてどう思いますか。それはなぜですか。
(積極的に参加したい、できる限り参加したい、どちらでもよい、あまり参加したくない)
8. これまでにボランティア活動に参加したことがありますか。ある人は、どのような活動ですか。
(ある、ない) 活動内容
9. 高齢者にとって大切なものは何だと思いますか。
(医療、健康、家族、趣味、設備の整った施設、福祉サービス、お金)
その他 ()
10. 高齢者との交流で、どのようなことを心掛けますか。

資料 3 【講演会より】



〈シニア体験器具を装着して〉 →



↑
〈声かけと介助方法〉

〈ベットから車椅子へ〉 →

